



寺紋
ひいらぎ かもみ沢瀉 おもだか
(通称 大関沢瀉)

大雄寺報

＝ 第 13 号 ＝

平成 26 年 1 月 1 日発行

発行所 黒羽山 大雄寺

〒 324-0233

栃木県大田原市黒羽田町 4 5 0

TEL 0287-54-0332

FAX 0287-54-0330

編集発行人：住職 倉澤 良裕

印刷所：タキザワ印刷



保存修理事業「禅堂」



牡丹開花



ドラマ「一休さん2」ロケ中の1コマ



てらスクール「坐禅」

*****		目次	*****	
東阜心越と廓門貫徹について	2～3 頁	大雄寺てらスクール	5～6 頁	
坐禅堂の茅葺屋根修理	3 頁	大雄寺あじさい茶会	6 頁	
防火訓練・除夜の鐘・節分会・一休さん2のロケ	4 頁	新聞記事	7 頁	
第13回定期演奏会	5 頁	平成26年の主な行事	8 頁	

東臯心越と廓門貫徹について



倉澤 良裕

今から約三二〇年前の元禄二年（一六八九）松尾芭蕉は「奥の細道」紀行の途中、黒羽の浄法寺桃雪と鹿子畑翠桃を訪ね手厚いもてなしを受け十四日間滞在しました。その四年後元禄六年（一六九三）七月、東臯心越という中国僧がここ黒羽藩菩提寺大雄寺を訪れました。

大雄寺に東臯心越禅師筆の篆書額「靈鷲（リョウジュウ）」「学無為（ガクムイ）」また、「達磨図」「乗龍観音・梅・竹」「澄一（チンイ）禅師頂相」など東臯心越筆の絵画が歴史資料として保存しています。この来訪時の大雄寺住持十三世

廓門貫徹大和尚との接点関係資料から分ってきました。

東臯心越

（一六三九～一六九五）

心越は中国浙江省金華府浦江県に生まれ、名は興儔（コウチュウ）字は心越（シンエツ）、東臯（トウコウ）と号し、一般的に東臯心越と呼ばれます。曹洞宗寿昌派中興の祖、覚浪道盛（カクロウドウセイ）ついで潤堂大文（カツドウダイブン）について修行を重ね、三十二歳で印可を受け、杭州西湖の永福寺の住持となりました。十七世紀半ばの中国は、明朝が滅び清朝に替わる際の困難期であ

り、中国僧らが多数日本へ来航しました。僧侶の多くは黄檗宗（オウバクシュウ）に属し、日本の禅宗に多大な影響を与えましたが、なかでも隠元（インゲン）は黄檗禅を日本に伝え、京都に萬福寺を開きました。

東臯心越は、長崎の興福寺の明僧澄一道亮（チンイドウリョウ）の招きで、延宝五年（一六七七）三十五歳で来朝しました。一時黄檗僧の告げ口により長崎で幽閉されたが、徳川光圀に難を救われ、延宝九年（一六八一）、長崎から水戸藩の江戸屋敷へ移住し、さらに天和三年（一六八三）江戸を経て水戸へ移り、元禄五年（一六九二）天徳寺（のち祇園寺と改名）を開山しました。

曹洞宗寿昌派の祖として詩文、書、篆刻、七弦琴などに長じ、中国の文化を幅広く伝え、特に近世篆刻を伝えたことされることから、日本篆刻の祖と称せられています。

元禄八年（一六九五）九月三十日五十七歳を持って示寂しました。

廓門貫徹

（？～一七二〇）

江戸時代の曹洞宗の学僧であります。が、刊行書の序や跋から断片的に知るのみであります。「註石門文字禅」（宝永七年一七一〇）、「新臻註輔教編」（貞享三年一六八六）、「護法集碎金」（享保十四年一七二九）などを刊行しました。

「註石門文字禅」は「石門文字禅」北宋の覚範德洪（カクハントクコウ）

（一〇七一～一二二八）の詩文集で廓門による唯一の注釈書であります。

廓門貫徹は長崎県諫早の天祐寺にて「夾註輔教編」を講義し、その記録を「新臻註輔教編」に刊行しました。廓門貫徹は、東臯心越が長崎滞在中の時期に侍者として共に過ごすこととなります。この「新臻註輔教編」に東臯心越の序が付されています。廓門貫徹は若き日に独庵玄光（一六三〇～一六九八）東臯心越（一六三九～一六九五）に参じ、元禄元年（一六八八）大雄寺第十三世として入寺し、同年九（一六九六）に退董後正法寺へ入寺します。大雄寺退董後、宝永七年（一七一〇）「註石門文字禅」を刊行しました。晩年は江戸の正覚寺に住し、享保十四年（一七二九）独庵玄光「護法集」の註釈本「護法集碎金」を刊行し、翌享保十五年（一七三〇）一月二十七日に示寂しました。

「註石門文字禅」を宝永七年（一七一〇）に京都調心軒から刊行しますが、そこには当時の代表的禅僧である曹洞宗の卍山道白（マンザンドウハク）（一六三六～一七一五）、臨済宗の無著道忠（ムチャクドウチュウ）、黄檗宗の月潭道澄（ゲッタンドウチュウ）（一六三六～一七一三）の序が付されています。これらは出版準備にあたっての京都滞在期に廓門が各師を訪れ序を求めたものであります。

廓門貫徹の跋によれば「余、退寺の後、渴睡の余日に覚範禅師の文字禅を

看読して、意に詩文に純粹なることを喜ぶ」とあり、「石門文字禪」への註釈作業は、大雄寺第十三世を退董後より始まったこととなります。

廓門貫徹が東臯心越に参学したことは、貞享三年（一六八六）に刊行された廓門貫徹の「新録註輔教編」に序が付されていることから知ることが出来ます。この序の件については「寿昌正統録の東臯心越章」に（元和元年六月廓門侍者の為に輔教編に跋す。）との記述があります。

廓門貫徹は、元禄元年（一六八八）大雄寺第十三世となりますが、その前後の住持であります第十二世幽峰玄玄（？～一六九〇）、第十四世富山道庶（？～一七〇九）らは東臯心越に随侍した祖師であります。廓門貫徹が大雄寺の住持に迎えられたことは、東臯心越を介したものと考えられます。それは元禄八年（一六九五）に東臯心越が遷化（センゲ）し、翌年に廓門は大雄寺を退董することも符合します。その後は正法寺を拠点として各地を参学したと考えられます。

東臯心越と廓門貫徹は長崎から江戸を経て水戸へと移った後も親密な関係を保っていたこととなります。

元禄六年（一六九三）七月東臯心越は、那須温泉に訪れ黒羽に立ち寄ります。この頃の黒羽は米や材木など那珂川をくだり江戸へ運ばれていました。那珂川を挟んで、東岸が黒羽藩大関氏一万八千石の城下町、西岸は河岸問屋が軒を並べていました。

東臯心越は、元禄元年（一六八八）大雄寺住持第十三世廓門貫徹の住持を祝って墨一挺と金扇を贈り「達磨図」と「乗龍観音・梅・竹」の三幅対を画いてのこしています。また、篆書額の「靈鷲」「学無為」の額が（総門と禅堂に）掲げられています。



篆書額「靈鷲」



「学無為」



坐禅堂の茅葺屋根修理

大雄寺文化財保存修理事業として坐禅堂、本堂南側屋根の茅葺保存修理を平成二十五年二月より二ヶ月間に亘り行いました。大雄寺の伽藍は姿を変えることなく、約五百六十年間保存されてきており、昭和四十四年に栃木県有形文化財として指定を受けています。今回の茅葺屋根補修を行ったのは、国宝重要文化財保存修理工事にも携わる宮城県石巻市(旬)熊谷産業様です。

茅葺屋根修理 浄財名簿

栃木県文化財保存修理補助	平田 寛 様	栃木県	三山 禮子 様	千葉県
大田原市文化財保存修理補助	下村 正弘 様	東京都	菊地 正意 様	埼玉県
千坂喜美子 様	福島県	福井 一夫 様	東京都	埼玉県
平野 一樹 様	栃木県	松家 康裕 様	東京都	神奈川県
阿部 貴宏 様	栃木県	安井 光義 様	東京都	神奈川県
福田 光子 様	栃木県	学校法人日本芸術学園後援会	東京都	
高橋 邦夫 様	栃木県	日本芸術高等学園	東京都	
坂本 春樹 様	栃木県	永井 英勝 様	千葉県	西澤 好直 様

この補修においては、その他、数多くの檀信徒、並びに参拝者の皆様による浄財より行わせて頂きました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

防火訓練



雪がまだ残る平成二十五年一月二十四日、消防署黒羽分署と大雄寺僧侶で文化財防火デーにあたっての防火訓練が行われました。

当日は文化財、重要書類の搬出や境内に設置された放水銃の取り扱い訓練に取り組んだ他、消防隊員による迅速な訓練が行われました。

境内には消防車、救急車も止められ、本格的な防火訓練を行うことができました。



除夜の鐘

大晦日から元旦にかけて、多くの寺院では梵鐘の澄んだ音が響き渡ります。梵鐘が百八回撞かれる所以は、人間に備わる百八の煩惱を祓うためとされています。

大雄寺においても、一年の節目である大晦日から元旦にかけて、百八回梵鐘を鳴らしております。十二月三十一日二十三時四十五分を撞き初めとし、昨年も多くの方々が除夜の鐘を撞きに訪れました。本堂内及び、本堂前庭にはたくさんの方々が火が灯ります。今年も普段とは異なった境内の風景の中、毎年家族で梵鐘を撞きに來られる方など沢山の方が来山しました。元旦になる時間には本堂、開山堂、庫裡、禅堂、永代供養堂、不動明王堂等で僧侶による読経が行われ、禅堂では撞き初めと同時に坐禅を行う方もおりました。総門前ではゆず茶が振舞われ、冷えた体を温め、各々無事に過ごした一年を締めくくり、また新たな年が幸せであるよう祈願されておりました。



節分会

二月三日、日曜日に大雄寺において節分祈禱法会を厳修致しました。昨年は百名以上の参詣者の皆様にご参列いただきました。

今回は例年通りの祈禱法会に加えて初笑いと称し、柳家おさん様の落語を参詣者の方々にお楽しみいただきました。

最後は参詣者の皆様と共に鐘の音に合わせて、本堂より庭に向かい豆を撒きました。

今年も皆様が平和で穏やかな一年が過ごせますようお祈りいたしまして、三十五回目になる大雄寺節分祈禱法会が無事終了いたしました。



鈴木福くん主演ドラマ『一休さん2』のロケが大雄寺で行われました。



昨年も一昨年に引き続き、フジテレビ系列のスペシャルドラマ「一休さん」(鈴木福君主演)のロケが大雄寺にて行われました。昨年は四月九日から三日間にわたり、撮影が行われ、五月五日こどもの日に「一休さん2」として放送されました。

歴代住職をはじめ、各檀信徒のご先祖様に支えられ、長い間、戦火や災害にも遭わずに護持されてきた大雄寺の伽藍が、今年も沢山の方々の目に留まり、足を運んでいただく機会を得られたこと、大変ありがたく存じます。今後も仏法だけでなく、形として残る大雄寺の伽藍も護れるよう、精進してまいります。

第13回 大雄寺定期演奏会

「懐かしき時代へ」開催

毎年恒例となりました大雄寺定期演奏会を、例年通り牡丹の開花時期に合わせ、平成二十五年五月十二日（日）に大雄寺本堂にて開催いたしました。

昨年は「懐かしき時代へ」テノールと朗読のひととき」と題し、ピアノの伴奏に合わせ歌と朗読をお楽しみいただきました。満開に咲く牡丹を背景にした舞台で、テノール歌手である山元浩司氏、朗読を山元寿美子氏、ピアノをスアレス真笛氏に数々の日本の名曲を演奏いただきました。

午前の部、午後の部共に、たくさんの方々にご来山いただき、春風がそよぐ中、石川啄木や滝廉太郎の名曲が境内に響き、しばし時計の針が戻った一日を過ごすことができました。



大雄寺 てらスクール



と筆で仏様を写す「写仏」、クイズに答え境内を探検する「寺探検ゲーム」や「肝試し」などのアクティビティを楽しみました。

普段の環境とは異なる空間に緊張した面持ちで始まった今年のてらスクールは、天候にも恵まれ、大きな怪我もなく、無事終えることができました。大きな声でたくさん叱り、たくさん笑った今回の体験が、子供たちの今後の成長の良ききっかけと思いい出になることを願っております。



子供たちの声・・・

『一泊体験の感想』

お盆明けの週末に行われる「大雄寺てらスクール」も今年で八年目となりました。大雄寺坐禅会である「雄禅会」の皆さんが中心となり、昨年も一泊禅体験研修となりました。今回は県内外の小学二年生から中学一年生までの合計二十七名の子供たちに、参加いただきました。

子供たちは、はじめて行う「読経」や「坐禅」のほか、誰一人話すことなく姿勢を正し頂く「食事」、「作務（境内清掃）」などの禅体験をした他、墨

●この一泊二日はとても楽しかった。お寺での色々な決まり事がたくさんあったけど、充実した一泊二日を過ごせた気がする。短かったけど、友達ができたし、みんなで協力できた。写仏がとても楽しかった。来年もまた来ようと思う。（中一）

●色々なことを学んだ。それに楽しかった。ここに来て本当によかった。

楽しい一日だった。でも寝るときが少しこわかったです。(小三)

●肝試しが一番たのしかった。何回か驚き、びっくりして、叫んだ。走っちゃった。すごく怖かった。最後は、全力で逃げた。あと、ごはんを食べる時とかも、正座でたべる事が少しづらかった。あと、靴をそろえる事も大切だと分かった。(小四)

『坐禅体験』

●警策をもらった時、少し痛かったけど警策を受けてから背すじをピンと伸ばし集中して坐ることができました。(小五)

●二日目の坐禅で、足が痛かったけど、がまんをしてやった。(小五)

●思ったより足がしびれて痛かったです。でも、二日目の朝にやった坐禅は、しびれたけど、少しなれました。(小六)

『作務』

●久しぶりにまめができるほど、ほうきではけました。作務を楽しいと初めて思えました。(小六)

●長い廊下を雑巾でふいた。大変だった。(小三)

●やってみるとけっこう疲れた。けど、綺麗になってうれしかった。(中一)

『写仏と竹額作り』

●二人のお地藏さんを写しました。まっすぐな線を写そうとすると力が入ってしまい、線が太くなってしまう。(中一)

●写すのが難しかったけど、楽しかった。筆の使い方がなれていないからむずかしかった。(小五)

●竹で作った額の作り方が少し難しかったけど、楽しかった。(小四)

『おてら探検ゲーム』

●集団行動に気をつけながら頑張りました。難しい問題はみんなで話し合っできました。(小六)

●いろいろな問題をといて、とてもおもしろかった。クイズはぜんぶお寺で学んだことだった。(小四)

●みんなで助け合いながらシールを集めるのが楽しかった。(小五)



「大雄寺でらスクールに参加して」

坐禅会 中村 圭子

八月十七日、十八日と夏恒例の「てらスクール」が開催された。昼過ぎ、大きな荷物を肩に掛けた子供たちが総門をくぐってやって来た。坐禅、作務、食事「薬石・小食」等、非日常の寺の生活が始まった。

まず「坐禅堂」での授業がスタートした。ご住職様の厳しい警策とお声の指導に小さな背すじがピンと伸びた。「写仏」の時間では仏様の姿を毛筆で描く作業。正座して寡黙に取り組み興味津々の様子だった。「おてら探検ゲーム」では、広い境内の中の各ポイントを巡る。そこで出される「難問」には、仲間と知恵を絞り、見事に全問パスであった。大汗をかけた後は甘いスイカで水分補給だ。皆でホッと和んでお互いに譲り合う姿が見られた。「食事の時間」は、おかゆを食べた経験のない子、パンでないと喉を通らない子達、普段の生活の一端を垣間見るようであった。

いよいよ下山の時間が近づき、最後の授業はやはり坐禅で締めくくりである。さすがに禅堂での子供たちは心落ち着き、清々しい姿に変身していた。閉校式では、終了証と記念品となった自作の「写仏の掛物」が授与された。誰もが得意満面の表情であった。大雄寺の総門を後にする子供たちの姿は昨日よりも自信に満ちた様子であった。

大雄寺 あじさい茶会 開催

あじさいの咲く時期である平成二十五年六月三十日、大雄寺茶室にて東京からの社中による「大雄寺あじさい茶会」が開催されました。当日は、天気にも恵まれ、県外から訪れた方や

お子様連れの方など、数多くの皆様にご参加くださいました。

待合室である大広間には、茶道で使用する御園棚(みそのだな)や軸等の茶道具展示の他、初めて茶道を体験する方への説明案内が掲示されました。茶室へは囁口(にじりぐち)から入ることができ、目の前でお茶をたてて、頂くことができました。

茶道は「もてなし」の心を大切にする日本文化の一つであると共に、「わび・さび」や「一期一会」等、禅の精神を残す『道』でもあります。

またとない、ひとときと一服のお茶を、四畳半の茶室でゆっくりと楽しむことができました。また、機会がありましたら開催させていただきますので、興味のある方はどうぞご参加ください。



※ボ記者が挑む

筆彦の散歩でマボ

▷ 2

黒羽・芭蕉編



実践編第1回は歩きの達人、俳聖松尾芭蕉に敬意を表して黒羽(大田原市)を訪ねた。1人では心もとなく現代の達人2人に同行を頼った。宇

600年以上の歴史を誇る神寺大雄寺、可憐なシヤガの花と森とした参道に癒やされる

都宮市のグラフィックデザイナー佐藤信明さん(68)、県勤労者山岳連会長増田俊雄さん(63)と黒羽の名所旧跡巡りに出掛けた。

黒羽田町公園駐車場に車を止め、黒羽藩主大関氏の菩提寺、古刹大雄寺に向かう。黒羽小裏手、緩やかな上りの大洞街道先に大雄寺入り口がある。アヤメに似た淡い紫色のシヤガをめぐるスギ、ヒノキの古木が並ぶ参道を進む。130段以上の石段はゆくり登っても息が切れる。途中「ミラカンの丘」で小休止。釈迦の16人の高弟を配した十六羅漢。喜怒哀楽を刻し



イラスト 佐藤信明

俳聖に思いをはせ

9100歩、目標達成ならず

た石仏の表情が楽しい。総門左手奥、歴代藩主の墓を訪ね、高さ5尺近い五輪塔に手を合わせた。本堂、座禅堂など回廊で結んだ、かやぶきの建物群は見応え十分。大輪のボタンも楽しんだ。芭蕉が奥の細道に旅立ったのは1689(元禄2)年春。日光参拝後の同年4月4日(陽暦5月23日)、まな弟子浄法寺桃雪、鹿子畑翠桃兄弟の厚いもてなしで道中一番長い週間黒羽に滞在する。ただ、なぜか「奥の細道」や「蕉良の日記」には大雄寺の記述は出てこない。「なぜ」と悩むが、先を急ぐので謎解き

はあらためて。さらに芭蕉の館からアジサイで有名な黒羽城址公園を回り、芭蕉の道に入って旧浄法寺邸などを巡って戻る。坂あり階段あり、程よく心拍数も上がり散歩に最適。新緑だけでなく道はたの山吹草の黄色、山ツツジの朱色など、点在する草花が目に見える。

下野新聞 平成 25 年 5 月 24 日より

座禅を体験 強い心養う

足利銀行行員



【大田原】足利銀行(宇都宮市)は26日、黒羽田町の大雄寺で「新入行員座禅研修」を行い、フレッシュマン99人が心身を鍛錬した。座禅。社会人としての意識や新人同士の連帯感を高め、強い心を養おうと初めて企画された。新入行員たちは堂内での作法や礼儀を学んだ。その後、大雄寺に参拝し、大雄寺の歴史や文化について学んだ。座禅では、慣れない座禅に真剣な表情で臨み、それぞれが雑念を振り払い心を集中させた様子だった。

下野新聞 平成 25 年 4 月 28 日より

の寺「一休さん」ロケ 今年も 来月5日放送、福君ら出演

大田原

【大田原】黒羽田町の古刹、大雄寺で9日から11日まで、フジテレビ系列のスペシャルドラマ「一休さん2」のロケが行われ、主演の鈴木福君ら出演者が熱演した。

県フィルムコミッションの仲介で、アニメ「一休さん」の舞台「安国寺」のイメージに大雄寺が最も近いと選ばれた。ロケは昨年6月放送のパート1に続き2回目。撮影は9日午後からスタート。初日は奥の細道に指定されている本堂や山門、鐘楼を使った撮影が行われ、福君やさやちゃん役の小林星蘭ちゃんなど子役たちがはつらつとした演技をみせていた。同寺は室町時代後期の建築。倉沢良裕住職は「昨年のドラマ放送後、寺を訪れる人が増えた。撮影場所となることで、大田原のPRになれば」と期待を込めていた。ドラマ「一休さん2」は5月5日に2時間番組で放送される。(五月女裕美)



山門で撮影に臨む福君(中央)ら

下野新聞 平成 25 年 4 月 17 日より



○2日間の日程で、座禅をはじめ作法(掃除)や寺の食事、写仏、きもだめしなども体験する。宇都宮市陽南小4年の斎藤ひびきさん(10)は「最後までしっかりと修行したい」と意を凝らしていた。

○大田原市黒羽田町の古刹、大雄寺で「てらスクール」が17日始まり、県内外の小中学生27人が禅を体験した。座禅。○開講式で僧侶が寺のきまりや座禅の組み方などを説明。その後、子どもたちはしんと静まりかえった座禅道場で真剣に座禅を組んだ。

下野新聞 平成 25 年 8 月 2 日より



倉沢文利住職(右)の指導で座禅を体験するマドラスカレッジの学生。大田原市黒羽田町の大雄寺で

スコットランドの高校生が座禅体験。大田原・大雄寺。大田原市の高校生交換留学事業でスコットランド・セントアンドリュースから来日しているマドラスカレッジの学生4人が17日、同市黒羽田町の大雄寺(倉沢良裕住職)で座禅を体験した。男子のアレスター・マニングさん(16)と大田原市立大雄寺高校生4人は7月下旬から12日間の日程で来日。2日は夏祭り「大田原」で、全員が座禅は初体験。倉沢文利住職から姿勢や足の組み方などの指導を受けた。座禅に慣れたマニングさんは「約30分間、わたが腰の硬さを体感した。フローラさんは「足がしびれたけれど楽しかった。お寺は落ち着いた場所

でリラックスできまして話していた。4人は7月下旬から12日間の日程で来日。2日は夏祭り「大田原」で、全員が座禅は初体験。倉沢文利住職から姿勢や足の組み方などの指導を受けた。座禅に慣れたマニングさんは「約30分間、わたが腰の硬さを体感した。フローラさんは「足がしびれたけれど楽しかった。お寺は落ち着いた場所

下野新聞 平成 25 年 8 月 18 日より

大雄寺プチ修行

お寺の生活を半日体験できます。
希望される方は「朝の修行」または「夕刻の修行」を選び、事前にお問い合わせください。

<朝の修行>

上山

6:30	坐禅の説明
6:45	暁天（坐禅）
7:15	朝課（読経）
7:35	作務（清掃）
8:05	拝観・回向之証授与

下山

<夕刻の修行>

上山

14:45	坐禅の説明
15:00	作務（清掃）
15:30	夜坐（坐禅）
16:00	晚課（読経）
16:20	拝観・回向之証授与
16:55	大梵鐘八声（鐘つき）

下山

日曜坐禅会

毎月第2・第4日曜日午前7時30分～

※初心者の方は事前にプチ修行体験が必要になります。

毎月2度、忙しい日常から抜け、禅堂でただ坐禅を組んでみませんか？

7:30	止静（坐禅開始）
8:15	作務（清掃）
8:30	下山または茶話会

写経会

毎月第1火曜日午後1時～

読経会

毎月第1火曜日午前9時～

ご詠歌教室

毎月第2・第4水曜日午後1時30分～

平成26年の主な行事

1月1日より	初詣
2月2日	節分会
2月27日	白旗不動尊大祭
3月18日～24日	春彼岸会
5月1日	牡丹開花
5月8日	花祭り
6月8日	大般若法会
8月13日～16日	盂蘭盆会
9月20日～26日	秋彼岸会
10月1日	大施食会
12月18日	観音祈願納経法会
12月31日	除夜法会

問合せ先

黒羽山 大雄寺

☎ 0287-54-0332

大雄寺ホームページ 詳細説明、一口法話、お知らせページ、掲示板など掲載

URL <http://www.daiouji.or.jp/>
E-mail ryoyu@daiouji.or.jp